

令和2年度からの教科用図書の採択について

山形大学附属小学校

採択教科書

【国語】東京書籍

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- ① 単元毎に、育む資質・能力を「言葉の力」として設定しており、その力をつけることができるように、学習活動を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」の3ステップで構成している。単元の導入「つかむ」では、どのような力をつけたいのか明確に示されている。その教材ありきではなく、その教材を通してどのような力を身に付けたいのか明記されている。「取り組む」では、単元における問いが示されている。そして、ある程度幅をもたせた「ふり返る」視点が設定されており、子どもが学んだことを多様に表現することができる。これらは、本校が描いている生き方を育む問題解決の歩みに合致している。
- ② 情報と情報を関連づけて理解や思考を深める力を育成するために、複数の教材を提示している。「全国学力・学習状況調査」で課題とされた、複数の情報を関連づけて考える力の育成をねらった教材や単元が盛り込まれていることから、コンテンツベースからコンピテンシーベースへの考え方の転換がはっきりと分かる。
- ③ 1単元1領域を原則として指導事項を重点化している。具体的な言語活動を設定し、活動の目的や条件に沿った課題解決的な学習を設定している。子どもにとって、向かいどころがはっきりすると考えられる。
- ④ 既習事項や生活経験を想起させ、自分ごととして課題を捉えることができるようにしている。また、「生かそう」で挙げられている場面が具体的で、教科を越えて付けた力を生かす道筋が示されている。
- ⑤ 各学年とも、夏休み前には「本は友だち」、冬休み前には「□年生の本だな」として本を紹介しており、年間を通して読書意欲を高めることができるようになっている。
- ⑥ 資質能力を育むことが前面に出ており、学習活動が精選されている。そのため、何をどのように扱うか、子どもの実態に合わせて柔軟に対応（カリキュラムマネジメント）することができる。

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- ① それぞれの学習の過程が「めあてを確かめる」「試し書き」「課題発見」「練習」「まとめ書き」「他の文字で確かめる」「振り返る」と示されており、自ら課題を見つけて探究していく構成になっている。さらに、書いた作品を見ながら仲間同士で話し合う活動も取り入れており、本校でめざす、子ども同士によるかかわりを大切にした問題解決の歩みに近い。

めあてが明確に提示されていることに加え、「考えよう」で問題解決のための視点や問いをもつきっかけが与えられたり、「ここが大切」で解決のための手がかりが押さえられたりできるように構成されている。
- ② 「友だち」「仲間」「成長」「歩む」「実現」「理想」などが収められ、本校の研究でめざす「よりよい自分に向かって歩み続ける生き方」と結びつく題材が多い。
- ③ 学習の始めに教材文字、その次に学習内容を配し、学習の流れに沿った紙面構成になっている。1・2年生全員に水書用紙が付属しており、運筆をくり返し練習することを通して、硬筆での適切な書字動作が身につくことが期待できる。3年生の「はじめの学習」では、大きめの写真を使用し、用具の扱い方についての要点を絞った分かりやすいページ構成になっており、毛筆の初期指導を丁寧に行うことができる。上学年においては、子ども自ら課題を選択して、学んだことを生かして書く単元も設定されている。このように、各学年意欲的に学ぶことができる工夫がなされている。
- ④ 「レッツ・トライ」のコーナーで、国語の授業だけでなく、他教科や学校生活など、くらし全般に生かすことをねらいとした「書く活動」を豊富に取り入れている。

採択教科書**【社会】東京書籍****採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）**

- ① 記載の事例地に東北地方が多く、子どもたちの生活経験と近いものが多数あることから、学習において参考になるものが多い。（4年特色ある地域では仙台市、災害では東日本大震災、自然では白神山地、6年政治では東日本大震災からの復興など）とりわけ5年米の学習では庄内平野を取り上げていることで、自分たちのふるさとへの誇りと愛情を育むことができる内容となっている。
- ② 「まとめる」の段階において、学習問題を再度提示し、それを意識しながら「新聞に表す」や「キャッチコピー」「4コママンガ」など多様な表現活動でまとめることが例示されている。
- ③ 単元毎に「つかむ→調べる→まとめる→生かす」の学習段階が示されていることで、活動内容が明確になり、見通しをもって学習できる。
- ④ 社会的な見方・考え方を4つのマークで示しているため、どの視点や方法を用いて問題解決をしていくのか、手掛かりにしながら学習を進めることができる。
- ⑤ 5年と6年が分冊になっていることで、2期制の本校の実態に合っている。

採択教科書**【地図】 帝国書院****採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）**

- ① 巻頭に「地図のやくそく」「地図帳の使い方」について12ページにわたり解説されており、3学年から地図帳を使う上で地図の基本的な概念を獲得しやすくなっている。また、学年に応じた使い方を意識しており、発達段階に応じた指導ができるようになっている。
- ② 各地方の地図の次に、主要都市周辺の地図がクローズアップされ、特徴的な産業や位置関係等、関連する情報が分かりやすく示されている。
- ③ 統計的な資料が多く、全国における山形県の特徴について根拠や理由を明らかにしながら考えることができるようになっている。
- ④ 「日本の自然災害と防災」のページでは、過去の事例を掲載するとともに、防災・減災への取り組みをイラスト等でわかりやすく示している。

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- ① 単元の導入で、学びのきっかけが示され、学びを展開していく。単元展開に沿って、知識や技能を身に着けたり、数学的な見方・考え方を養ったりしていく。また、単元展開の中で、「だったら…」と発展的に考える場面も見られ、身に着けた知識や技能を活用したり、数学的な見方や考え方を働かせたりすることができるよう工夫されている。さらに単元の終末では、「ふり返り」の内容も示され、「学び方」「数学的な見方・考え方」「知識・技能」という観点で学びを確かにする工夫がされている。

一筋の文脈に要点が整理され、簡潔かつ明瞭に示される中、問いから問いへ、学びの連続性が感じられる紙面構成は、子どもにとっても教師にとっても算数における「学び方」のモデルを示している。

- ② 本書下段には、単元における学習内容に付随した情報が盛り込まれている。知的好奇心をくすぐり、さらなる学びを拓く可能性に富む。

上記①②の理由により、本書を選定する。

採択教科書**【理科】大日本図書****採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）**

- ① 単元の最初に問いを引き出すような写真を見開きで提示し、子どもが自然に問いをもつことが出来るように工夫されているとともに、問題解決の一連の過程が分かりやすく示されている。
- ② また、「結果」に子どもの文字で図表のまとめ方の例が載せられており、子どもが結果をまとめる際の参考にすることができる。
- ③ 「計画」や「考察」については、最小限の情報量で構成されているので、子どもの発想を生かしたり思考を広げたりする余地を残しており、本校で活用するための自由度が大きい。

上記①～③により、必要な場面で重点的に教科書を活用する本校の学習に向いている。

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- ① 各ページに多くの写真が掲載され、子どもが学習への興味・関心を高めることができるように構成されている。また、写真につけられた吹き出しや見出しが、子どもの思考に沿ったものになっている。単元が進むにつれて、気付きの質が高まっていることがその言葉からわかる。
- ② 子どもが生活に関わる見方・考え方を生かし、気付きの質を高めていくために、教師がどのように子どもの思考を整理するか、また、どのような声かけをしたりしていくかがわかるページ構成となっている。そこでは、ウェビングやYチャートなどの思考ツールの活用が示されている。教師が授業で思考ツールを活用していくことによって、子どもの思考を「見える化」することが大切にされている。子どもは、教師の支援によって思考を整理する経験をすることで、思考の整理という「学び方」を身に付け、その後も活用することができるようになると思う。
- ③ 単元末に掲載されている「ポケットずかん」、巻末に掲載されている「ちえとわざのたからばこ」の内容が充実している。子どもは、これを活用し、学習の中で生じた問題を解決したり、学習を進めるときに大切な考え方やまとめ方を身に付けたりすることができる。
- ④ 本校で実施している「スタートカリキュラム」との共通点が多い。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が発揮され、同級生、上級生、教師とあたたかくかかわったり、主体的に小学校の生活に取り組んだりしていることが写真からわかる。これらの巻頭を見た子どもたちは、小学校の生活に期待をしながら、幼児期に身に付けた協同性、思考力を発揮し、のびのびと自己を表現していくと考える。

上記①～④の点から、本校の生活科の学習に適している。

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- ① 題材内の教材が、主要部分と選択可能なオプション部分に分かれているため、子どもや学年の実態に合わせてカリキュラムマネジメントすることができる。
- ② 学習の見通しや活動が分かりやすく明示され、楽曲もジャンルや難易度も多様であり子どもが主体的に取り組むことができる。
- ③ 資質・能力を育みながら学びが深まる構成や配列が工夫され、領域ごとの系統も明確であるため、音楽活動を充実させながら6年間の学びを積み重ねることができる。

上記①～③により、子どもの思いや願いに沿った学習活動が可能となり、子どもたちは音や音楽を「たのしい」「美しい」と感じる心をエネルギーとして、音や音楽とくり返し向き合いながら、音楽へ対する感性が磨かれていくと考える。

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- ① 家庭科の3つの領域「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」、および、それぞれの内容が、2年間にわたってバランスよく配置されている。
また、5年生で基礎的な内容を学習し、6年生では学んだことを生かしてさらに学びを深めていくことができるような内容構成になっている。
- ② それぞれの題材が「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つの段階で構成されていることや、児童に問いかけるような項目名になっていることが、身近なところから課題を見つけ、問いをもち、自分ごととして問題解決に取り組んでいく学習に適している。
- ③ 2年間で5回設定されている「チャレンジコーナー」で、学んだことに関わる情報を掲載したり、「A 家族・家庭生活」の領域に関わる題材を2年間で5回配置し、できるようになったことを家庭で実践する機会を多く設定したりすることで、学校での学びを家庭でも生かすことのできる構成になっている。さらに、「レッツトライ生活の課題と実践」では、「生活の中から課題を決める」から「実践を評価し改善策を考える」までの課題解決の一連の流れを細かに、いくつかの具体例を示しながら掲載することで、新学習指導要領で新設された「家族・家庭生活についての課題と実践」に無理なく取り組めるようになっている。それらの実践が、児童の今後の生活をよりよいものにしていくための知識・技能の定着や、さらなる意欲につながっていく。
- ④ 2年間の最後の題材は「持続可能な社会を生きる」である。数年後には、社会へ出て未来を生きていく児童への、「一人一人が自らの手で、よりよい社会、明るい未来をつくってほしい。」という願いが込められていると考える。

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- ① 育成すべき三つの資質・能力を示し、「学習のめあて」と「ふりかえり」で、自分の学びを確認できるように配慮されている。
単に描くだけ、つくるだけになってしまわないように、目的をもって造形活動に取り組むことができるようになっている。
- ② 他教科と関連付けて学習することができる「合わせて学ぼう」マークとその教科が示されており、教科の横断的な学習と学びの可能性を広げられるように配慮されている。児童に育成したい資質や能力と造形の二つの視点をもとにカリキュラム編成を有効におこなうことができる。
- ③ 個人で学習を深める活動に加えて、共同で取り組む活動や他者を想定した活動を多く取り入れている。活動中での話し合い場面がふえ、コミュニケーションがはかれるように配慮されている。
- ④ 巻末の資料ページでは、学年に応じた用具・材料の知識や使い方がていねいに示されており、表現活動でつまづいたときに、子ども自身が参考にでき、知識・技能が確実に身につくように配慮されている。
- ⑤ 紙面構成では、完成作品だけでなく、発想・構想の力が育つように工夫がされている。例えば、活動写真や吹き出し、資料ページの充実など、児童のイメージの広がりを大切にしている。本校児童は図画工作科に関心が高く、「やってみたいな。」という思いを強く持っている。自分で考え、試行錯誤しながらつくり、学びを深めていく過程によく寄り添っている。

採択教科書**【保健】東京書籍****採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）**

- ① 探究の4つのサイクル（「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」）が明確に示されており、見通しをもって学習を進めることができる。
- ② 毎時間の終末のページが、「まとめる・生かす」として、知識・技能と思考・判断の振り返りを行える構成になっており、知識の定着や学習の内容を自分の生活に生かすための手掛かりにすることができる。
- ③ 保健で学んだことが、他の教科とどのようにかかわっているのかが分かるように、単元のはじめに「つなげよう」として詳しく記されているので、他の教科とも学習を関連付けやすい。
- ④ 二次元コードが付いており、デジタルコンテンツを手軽に利用しながら学習を進められる。また、内容が充実しており、学習内容を理解するための有効な手立てになる。
- ⑤ 単元の導入のページ「気づく・見つける」では日常生活を想起し、児童の興味・関心を引き出す写真が掲載されている。

採択教科書

【外国語】 東京書籍

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- ① 身近な暮らしに関することから、日本のこと、さらに世界のことへと、段階的に視野を広げて学習することにより、外国語を通して自己を振り返りながら生き方を考えることができる内容構成になっている。本校の外国語科で大切にしていきたい「外国語を通じて、自ら関わりながら相手や他者とつながろうとする子ども」を具現化できるよさがある。
- ② 別冊「picture dictionary」があり、2年間を通して豊富な語彙に触れることができる。児童が、必要に応じて主体的に語彙を調べたり選択したりできるよさがある。その際、全ての単語が4線上に記載されており、正しく書き写すための工夫もなされている。
- ③ 2年間でできるようになることのCAN-DOリストがありことで、目標や見通しをもって学習を進めていくことができる。
- ④ 世界の国々の文化や考え方に触れ、多様性を認める広い視野を育てていくだけでなく、自国の文化や伝統を見つめる工夫がなれている。
また、日本語と英語の違いに目を向け、言語への気付きを促す工夫がある。

採択教科書	【道徳】学研
--------------	---------------

採択理由（内容の構成や配列、学習活動の地域への適正性等）

- | |
|--|
| <p>① 全学年で「生命の尊さ」にかかわる教材を3点ずつ掲載するなど、「いのちの教育」を最重点に掲げている。また、「いのち」と「生き方」を関連付け、2学年ごとに具体的なテーマ、低学年「しっかり生きる」中学年「仲よく生きる」高学年「よりよく生きる」を掲げ、2時間のユニット学習を構成するなど、広い視野に立ってより深く自他のいのちの大切さについて学ぶことができるように配慮されている。これらは、本校の「山形県の子どもとして『いのち』（生命と生き方）を尊重する子どもを育てる。」という道徳教育の方針と合致すると言える。</p> <p>② 教材に主題名や、その教材で考えさせたい問いが掲載されていないことで、特定の価値観を押しつけず、一人一人の「問い」を大切にできる。これは、本校が大切にしている子どもの「問題解決」につながると言える。魅力的な教材文と、発問などの教師の働きかけにより、児童自らが問いをもち、解決するために考え、主体的に話し合い、ねらいに迫ることが期待できる。</p> <p>③ 大きな紙面を生かして、挿絵や写真が印象的に配置されているなど、教材がもつ魅力が伝わりやすい。さらに、先人や著名人を取り上げ、児童が憧れを抱いたり、考え方や生き方を学んだりしながら、自分の生き方について考えることができる教材が多く掲載されている。</p> |
|--|